

妄想ストーリー（グループ①）

人物設定

退職後の年金人生

施設のスタッフ

タイトル

人生後半の生き方

ストーリー

365連休の生活、気ままにその日を過ごし、体も頭も健康で楽しくありたい。
そのためにも興味のある施設へ足を運ぶように出来たら良い。
例えば、美術館、博物館、図書館、コンビニ、軽スポーツ等、複合的な建物。入口がひとつ。その時の気分で、どこへでも。

<施設に必要な機能(役割)>

上記に書いた機能以外にも、入浴施設や軽レストラン、カフェ、素人美術館、アンテナ情報センター等

人物設定

Aさん:小学生の子供を持つ母。フルタイムで仕事をしていて毎日忙しくしている。

Bくん:小学生の男の子。夏休みで時間がたっぷりある。宿題が進まず困っている。

タイトル

ともに学び高め合う

ストーリー

Aさんは毎日忙しく働いていて、息子のBくんとの時間がとれていません。

夏休みの自由研究のテーマに困ったBくんはAさんに相談しました。

「図書館で調べてみたら？」とBくんに伝え、さっそく行ってみることに。

データ検索で今までの先輩の作品を見たらヒントをもらえたよう…。

また、グループ学習室では、同じ悩みを持った人たちで勉強することができて、家で過ごすよりもよい時間を過ごせたようです。(こまつコモンズ)

<施設に必要な機能(役割)>

データの整理(過去の作品など)、フレキシブルな建物、グループでわいわい過ごせるスペース

人物設定

サザエさん一家

サザエさん、フネさん、カツオくん、ワカメちゃん、波平さん、タラちゃん、マスオさん

タイトル

サザエさん一家の日常の一コマ

ストーリー

サザエさん一家は未来型図書館ができて生活がずいぶん変わったそうです。

ある朝食での会話

サザエさん「私は今日は図書館で習っていたウクレレの発表会があるの。カフェも楽しみ」

フネさん「ちょうど自然栽培のマルシェがあるから見に行くわ」

カツオ「僕は中島やかおりちゃんとX'masイベントの相談をするんだ」

ワカメ「私は学校の図書館委員で小松の図書館の本との入れ替えをする」

波平「そうか、お父さんは図書館と関係ないなあ」

タラちゃん「おじいちゃん、図書館に連れて行って…」

波平「図書館に囲碁コーナーがあって、新しい仲間ができて、教えることになったんだよ」

マスオさん「僕も図書館で新しい何かを見つけたいと思うのです」

<施設に必要な機能(役割)>

発表の場、マルシェ、カフェ、相談ができる、学校図書館との関係、お互いが教え合える場

人物設定

小松に移住してきた30代

九谷焼作家、図書館

タイトル

九谷焼との出会い／蓄積と更新＝成長する

ストーリー

移住してきたばかりのため、町を知るために図書館を訪れた。(こまつベース)

図書館では地元の野菜や九谷焼の販売などが週末に行われていることを知る。九谷焼の体験コースのチラシをもらい、焼き物体験をする。好きな作家が増え、九谷焼の成り立ちや新しい取り組みなどの本を調べるうちに、九谷焼の発信(情報)に携わりたいと思うようになる。(こまつコモンズ)

知り合った作家のサポートやマーケティングなどに参加する。(こまつキャンパス)

蓄積と更新＝成長する

本物の展示、図書館に九谷焼展示

<施設に必要な機能(役割)>

マルシェ、図書館、情報発信、掲示板、美術品の展示

人物設定

定年退職後「人生のまとめ」をする(したい人)

自分自身、司書

タイトル

図書館で、様々な情報を得る、まとめる

ストーリー

自分の知りたい情報を知ることのできる図書館。調べ物をしたいと時に静かに一人で情報と向き合える場所を求めて図書館によく行く。(こまつベース)

多くの情報を収集できて、一人では調べられない情報に出会える場所として図書館に通う。

ある日、とても優秀な司書に出会い、より情報の取得の幅が広がり、司書の育成にも興味がわく。(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

静かで、情報収集、情報のまとめ

人物設定

何か趣味を持つ人

同じ趣味を持つ人

タイトル

趣味をより楽しくする

ストーリー

週、月替わりで何かに関するイベントを開催する→集まる(こまつコモンズ)
→人々の趣味となるもの。ex)アニメ、マンガ、K-pop、スポーツ等

<施設に必要な機能(役割)>

妄想ストーリー（グループ②）

人物設定

65才の女性、仕事は続けているが孫との時間、友人との関わりを楽しんでいる。(A)

小学生の男子。本を読むという事には関心は薄いに興味を持っているものはある。(X)

タイトル

楽しむ空間、人との開放的なつながり

ストーリー

生まれながらの小松市民のAは図書館の周辺のカフェなどのお店が並びそこを散策し、友人とお茶をし、おしゃべりするのが好きである。図書館の周りには昔ながらの芦城公園の風情を感じる木々の落ちつきを感じながら、それにマッチしたカフェの雰囲気が時間を忘れさせる。人と関わり集まり時を過ごす(こまつコモンズ)

Aは時に孫を連れてくる。本の活字を読む事は好きではないが、興味のある事の本を手にお茶を飲む私の横で自分の将来を考えながら親しんでいる。図書館を拠点に開放的な場(こまつベース)

<施設に必要な機能(役割)>

閉鎖的な小松を変えようとする人物、開放的な雰囲気

人物設定

Aさん。55歳の男性。会社員で35年間働いてきた。
60歳の定年後の生き方に不安を抱えている。

・企業の経営者B
・学校の教師C

タイトル

つながり合い、ビジネスプランをつくり実践する

ストーリー

Aさんは、新聞やテレビを見ていて、最近学校に行けなくなっている子どもが多くなっているを知った。そうしたときに、子どもたちの学びやつながりの場として、「フリースクール」があることを聞いた。Aさんは、それがどういうものか気になり、ネットで調べ詳しい本が出版されていることを知り、図書館へ通い、フリースクールの仕組みを調べ、いつか自分がこうした場をつくれないうように考えた。人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)

何度か図書館に通っていたある日、図書館にビジネス支援のコーナーがあることを知り、カウンターに訪れると、今度「創業セミナー」があることを教えてもらった。セミナーに参加し、ビジネスプランを考え、紹介し合ううちに、ますます起業の意欲がわいた。一緒に参加していた人が、学校の教師Cであり、自分のプランを話すと、Cさんもぜひ一緒にやりたいの展開になった。持ち寄り共有し出会う場所(こまつコモンズ)

二人は一緒にビジネスプランを練っていくうちに独自性を考え、企業経営者から学べるスクールを考え、フリースクールの目玉に据えた。経営者Cさん(知り合い)に協力を依頼しプランが完成。定年後フリースクールを運営した。ともに作り育む場所(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

色んな事を知っていて、何でも相談に乗ってくれる人。自分とともに考えてくれる人がいるところであってほしい

人物設定

Aさん:シニア男性(82才)
①1日10人の人と話す。②1日8千歩あるく。
をモットーに生活している。

2年前に妻を亡くし、独身生活。二つの目標を毎日チェックしている。妻の墓参も毎日済ませる。風呂の友、公民館関係。

タイトル

「さあ 今日、まず図書館に！」

ストーリー

- ① 起きて、早朝ウォーキング。途中のコンビニで、ミルクとパンとで朝食。知人とよく会う。毎日のチェック
- ② 後半、コンビニを出て、後半ウォーキング。街灯が完備しているし、車も人も少ない。チェックのしあう事
- ③ 冬は少し寒い、しっかり着込んでOK。規則正しく生活する
- ④ 少し休んで、午前中に温泉へ。腰痛らく。
- ⑤ 昼食取って、図書館で、本巡り、多くの新聞と。友人とダベリング。
- ⑥ 早めの夕食を済ませ、就寝。

<施設に必要な機能(役割)>

地域住民相互間の融和をはかる

人物設定

自分、50代女性、コロナ禍で幼少期にならっていたピアノを趣味で始めた。ストリートピアノ楽しかった。

人生で大切にしていることは、家族、友人、自分の時間

タイトル

音楽でつながろう

ストーリー

未来型図書館の一角に設けられたピアノを利用して、好きな曲を弾いていました。ある日、ピアノは弾かないけれどほかの楽器(例えばバイオリン)をやっているという人が現れました。一緒に何か弾けたらいいねということになりました。(こまつコムズ)出会う場所

どんな曲にしようか、他にどんな楽器があったらいいか、図書館を利用し話し合いました。素人だけではなかなか難しい面もあり、音楽に詳しい知人に相談することになりました。(こまつベース)人の営みや情報の核となる拠点

それぞれの知人・友人に声を掛け、メンバーを集め、ちょっとした音楽会を開催することになりました。(こまつキャンパス)ともに作り育む場所

<施設に必要な機能(役割)>

音楽スタジオ

人物設定

Aさん 学生
音楽を通して地域を発展せたい
図書館の交流スペースで仲間を探している。

B、C、Dさん
(音楽を一緒にやってくれる
人を探している)

タイトル

音楽で創る地域作り

ストーリー

Aさんは、図書館にある市民の交流スペースにて一緒にバンドをやるメンバーを探していました。図書館内にある市民スタジオ(野外のフリースペース)で演奏したり、図書館内の掲示板にメンバー募集の紙を貼っていたことで興味を持ったB、C、Dさんが声をかけてくれました。(こまつコモンズ)

メンバーで小松の音楽イベントの情報やスタジオの情報について調べ、またもともとからある小松の文化(歌舞伎など)を調べ、音楽が地域を発展できる可能性を知りました。(こまつベース)

地域の人に音楽の良さ、歌舞伎の良さについて知ってもらうため2つを組み合わせたイベントを開こうと「劇場うらら」でしようと思っている。

<施設に必要な機能(役割)>

話せる環境

人物設定

30～40代男性・自営業、地元での地域活動と関わり、住民主体のまちづくりを町の人とともにしている。鉄が好き

・各種地域団体関係者
・仕事仲間
・中心市街地の方々

タイトル

住民主体のまちづくり拠点

ストーリー

- ・ 地域活動や町会など、市民主体の活動をアーカイブする集まりに参加し2年目、現地点でのアーカイブは完成しつつあるが、更新していくためにどうするか3年目以降のことを話し合っている。また、活動している者同士がつながり成長していく場を構築し、図書館を拠点に情報集積とコミュニティの場の流れが生まれつつある。(こまつコモンズ)
- ・ 住民主体のまちづくりをやってみたい町の方々が増えつつあり、勉強し、プラン作成、実行へつながる。(こまつベース)
- ・ ワークショップや発表を気軽に行える場、道具の販売、レンタル→ワークショップの方法などを共有する仕組み(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

ポートフォリオアーカイブ

妄想ストーリー（グループ③）

人物設定

社会人
子育てもひと段落した世代

趣味を通じて知り合った人
地域の人など

タイトル

小松の交流

ストーリー

趣味の建築や音楽の関係する本を利用している。テーマに沿った「交流会や学び会」に参加
そこでの新たな発見、自分の活動への学びを得る。

新たな趣味との出会い人との出会いが生まれる。

小松市、南加賀での文化を季節行事とともに発表、地域の学校行事などとも合わせて市民の方が図書館スペースを利用しやすいように、今あるホールやコミュニティーとの複合施設になるようなしかけになっていると文化交流が生まれるのでは…。
子どもスペースは防音対策をして楽しく利用できる場所であってほしい。年間を通じて子ども～おじいちゃんおばあちゃんまで気軽に立ち寄れる空間を利用していきたい。

<施設に必要な機能(役割)>

交流スペース

人物設定

自分

幅広い世代

タイトル

自然と動物とのつながり図書館

ストーリー

緑の自然を見ながらゆっくり動物と触れ合えたり、読書ができる。動物は、犬、猫、鳥、ヤギなど…。ドックランなどもある。自然と動物と図書館が組み合わせることで最大のくつろぎの場ができる。動物とふれ合い、動物が好きになり、人との交流も動物を通じて広げることができる。保護犬や保護猫を皆で育てる。(出会う場所)

<施設に必要な機能(役割)>

広い土地(自然)

自然に溶け込める建物設計

※木造(コンクリート×)、建物高くしない

人物設定

小松市へ通勤している社会人

- ・小松市に通学している大学生
- ・小松市で長年生活している高齢者

タイトル

未来型図書館の過去を知る

ストーリー

202?年小松市に「こまつ22世紀図書館よもっさ」(読もうよ)が開館する。小松市へ通勤する「私」は仕事で、または仕事の合間に「よもっさ」を訪れ、近くに「みよっさ」や「うらら」という小松方言を冠した文化施設があることを知り、たまたま図書館に来ていた地元の高齢者から、小松の方言や文化施設の立地場所の由緒や立地の経緯について話を聞く。また同じく図書館に来ていた大学生から、大学の図書館ではなく「よもっさ」を利用する理由は何か話を聞く。これらの文化施設は22世紀まで持続可能な建築物であるとともに、絶えず未来型図書館とはどうあるべきかが利用者によって検討され、更新されている。空とこども絵本館が旧警察署の重厚堅牢なづくりをしつつ、現在、未来の利用者の需要に応じて運営も柔軟に方向転換を図りながら、盛んに活用されている様子に感心し、「よもっさ」もそうなるよう、自分のできることで参加していきたいと思う。通学している学生からは、外の視点でどういう魅力があるかを聞き、地元の高齢者からは小松市史などに漏れた細かな情報を聞き取っていき図書館のHPに集積したい。

<施設に必要な機能(役割)>

町家を利用した貸本棚の情報を図書館で整理する。

町家の空商店を利用して、商売を始める若者を支援し、彼らに隣の店舗の貸本棚の管理をしてもらう。

人物設定

自分(社会人、学び直し、社会貢献)

多様な方々、子育て世代

タイトル

幸せな人生を送りたい！！

ストーリー

仕事を通じてのつながりって、定年後も続けられるのかなあ…

幸せな人生を送りたいと思ったら、やっぱり他者との関りのなかから感謝し合ったり、感動を分かち合いたい！

自分にできること(ex.子ども好き、子育て体験、共働き)で誰かのちょっとした支援ができれば嬉しい。

刺激もあったら楽しそう。おすすめの本の紹介や新しい趣味とか人生を豊かにするきっかけや出会いを求めて図書館に行ってみよう。

<施設に必要な機能(役割)>

アクセスが便利、継続、色んなテーブルや居心地のいいイス、情報ベース検索、(支援)

人物設定

両親の勤務都合で東京から転校してきた中学2年生の男子

・小松市で地域づくりに頑張るNPOスタッフ
・学びを応援する図書館スタッフ

タイトル

遠く離れた親友に小松を紹介するための行動 ～小松にまつわる知識と知恵(人材)に出会える場～

ストーリー

まだ友人と呼べる友達がいない状態。先日転校してきたが、小松のことがよくわからないので困っている。東京にいたころの友人達からメールが届き、「小松ってどんなところ？田舎？楽しくやれそう？」と聞かれて困った。

自分自身の興味もあってどんな町か調べることにした。学校の先生の紹介で図書館を訪ねると、「なんでもインフォメーション」コーナーがあった。そのスタッフに事情を話すと、歴史・観光・スポーツ・文化・食べ物・産業などいろいろなジャンルから紹介できると聞いた。とりあえず県民性も知りたいので、祭りについて聞いてみることにしたところ、とあるNPOスタッフを紹介してもらった。メールで待ち合わせたあと、セミナールームでお旅祭りについて話を聞いた。子ども歌舞伎があって、智仁勇の精神で頑張っていること、その一方で後継者となる子ども役者のなり手が少ないなどの悩みについても聞いた。いろいろ悩んだ結果、子ども役者のボランティアを育てる活動に取り組もうと思った。そして自分も参加して、そのときは東京の友人を招待したいと思った。

(コンセプトとの関係)

学生で訪れやすい距離、外観・ミーティングスペース(オンライン可)・人材バンク、紹介サービス有活動を応援(補助、アドバイス)

<施設に必要な機能(役割)>

マッチングセンター(仲介相談所)、ワンストップで相談できる場

人物設定

本人
祭り好き、町おこし、活性化

同じ祭り好き

タイトル

祭り、伝統文化の継承

ストーリー

伝統文化の共有

- ・ 他町の成功事例を参考に全国展開構想
- ・ 資金の調達。助成金、補助金、活用法の共有
- ・ 若い子たちへ、どうやって興味を持ってもらうか？相談
- ・ たとえば、「富山・越中おわら」の起源等の情報の調査ができる
→市や県、国から支援→市外・全国ニュース成功

<施設に必要な機能(役割)>

何でも相談センター(いろんな業界・分野に振り分け、アドバイスできる窓口)

妄想ストーリー（グループ④）

人物設定

本好きの人(成人)、他県

小松に住む友人

タイトル

「人が巡り、躍動する」館ではなく、通り(ストリート)

ストーリー

本好きの私は「うちの地元には面白い図書館があるよ」という友人の言葉に興味を持ち、小松を訪れた。案内された場所は商店街のような場所。「どれが図書館？」と聞くと友人は「この通りが全部そうだ」と言った。(こまつコモンズ)

通りには、世界一の在庫数の漫画がある理髪店や、短編小説を聞きながら施術を受けられるネイルサロンをはじめ、カフェや屋台、子供が遊べる場所などが並んでいる。「あそこには今度、地元のパン屋さんとコラボした本のパン屋ができるんだ」と友人が言う。(こまつキャンパス)楽しみながら歩いていると、いつの間にか私達は市役所近くにある「私が好きな作家の展覧会」が行われている博物館に着いた。(こまつベース)

<施設に必要な機能(役割)>

可変性、バリエーション、地域連携

人物設定

浪人中の18才
これからどうしたらいいかわからずモヤモヤしている

同世代のワカモノ

タイトル

世界を再発見する・世界とつながる

ストーリー

家にいても勉強も手につかず、居場所を探して未来型図書館へ。書棚を隅から隅まで眺めて何か面白いものがないか歩いている。「なるほど」背表紙をながめて「“世界”ってこんなものか」と気づく。(こまつベース(知の体系))

ふとオープンなコミュニティスペースを通りかかると、哲学caféをしている大学生やまちの人、テーマは“小松から世界へ”参加するわけではなく、すぐ横のカウンター席で耳をそばだてる。(こまつコモンズ(出会う))

そんなことを繰り返しているうちに、「一緒に話さないか？」と声をかけられ、参加するようになる。大学生になっても参加しつづけ、自分と同じようなワカモノが語り合いゲストを呼び、自分の学ぶ、働く、まちに暮らすを対話する「小松若者会議」を立ち上げ、図書館スタジオから世界に発信(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

- ・知の集積と体系、切り出された情報
- ・人々が集い、語り合えるスペースとしての空間
- ・編集し、発信できる

人物設定

小・中学生、学生、社会人

知識を持つ大人
同じ事に興味がある大人

タイトル

ストーリー

自分が普段興味を持っている事、疑問に思っている事を一緒に考えてもらえる人がいたら、どの様に学ばいいかを教えてくれる人がいたらいいなと思っていた。(こまつキャンパス)

図書館がその人が必要としている情報に関する本はもちろん、情報に詳しい人を紹介。(こまつコモンズ)
年齢に関係ない興味や関心がある事で人と人がつながり、お互いに刺激をもらう。(こまつベース)

<施設に必要な機能(役割)>

人と本、人と人をつなげられる人。

どうやったらつながられるか。一緒にやる・つくる。一緒に育てる。一緒に調べる。畑など生き物育てる。

人物設定

中年女性。子育てがひと段落して以前からやりたかった山歩き、登山を始めたが目下初心者レベル

登山歴の長いベテランの人

タイトル

ストーリー

趣味と健康を兼ねて以前から始めたかった山歩きや登山をはじめた。まず、小松の鞍掛山を何度か登るようになり山歩きの友達ができた。沢山草花を見かけるが、名前や写真の撮り方などを調べに図書館にやってきた。

そんな時、ある人が山の写真店を開催していて知り合いになり、山のいろいろな情報を教えてもらい、携帯で上手に撮るカメラ教室の開催をしていることを知った。山の魅力をたくさん聞かせてもらい、徐々にメンバーが増えて、年に数回山歩きをするまでにいった。

年代も様々だが、同じ趣味をもつ仲間ができ、山歩きしない時も花見やバーベキューなども楽しむグループができた。

<施設に必要な機能(役割)>

個人で開催(写真展など)できるフリースペース

人物設定

Aさん:子育て世代。3歳の子供がいる女性。

Bさん:Aさんと同じく3歳の子供がいる女性。

タイトル

家族ぐるみの交流

ストーリー

- 小松市民のAさんは、未来型図書館の一角にあるキッズスペースを利用して子供を遊ばせていました。すると同じように遊びに来ていたBさんの子供と仲良くなりB家との交流が始まりました。持ち寄り共有し出会う場所(こまつコモンズ)
- 子育てという共通の課題にとりくんでいる二人は子育ての相談や日頃のぐちなどを交わす内に仲良くなってゆき、困ったことがあれば助け合う家族ぐるみの仲になりました。人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)
- 二人のように図書館で交流する子育て世代が増え、子育てに対する情報交流スペースとして未来型図書館のキッズスペースが口コミで広がり、人でのぎわうようになりました。ともに作り育む場所(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

子どもを安心して遊ばせておける場所。それを見守ることができる場所。集まることができる場

人物設定

A君(小学3年生)

Bさん(小松生まれの70才男性)

タイトル

昔の遊びを通した世代間(多文化間)交流

ストーリー

学校で「昔の遊びについて調べてみよう」という宿題が出たA君は、近所のおじいちゃん(Bさん)に聞いてみることにしました。(こまつコモンズ)

Bさんが子どものころは、まだ車も少なく、路上でいろんな遊びをしていたそうです。男の子はメンコ、ビー玉、鬼ごっこ、けん玉など。女の子はおはじき、ゴムとび、お手玉など。A君もメンコをやってみましたが、全然上手にできません。でもBさんは昔取ったきねづか、A君がびっくりするような業を見せます。A君も少しずつひっくり返せるようになっていきました。次の日、学校で友達に見せると、みんなが興味をしめし、小学生の間でメンコがブームになりました。(こまつベース)

そして、お年寄りと、小学生がメンコを通して交流するようになり、お年寄りも子どもたちと遊ぶという楽しみができて元気になりました。(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

昔の路上のような人々が集まり活動する場所
異文化と触れ合える場所

妄想ストーリー（グループ⑤）

人物設定

小3の長女(9)

ナイジェリアの友人、AI

タイトル

距離の制限がなく、知識欲を満たしきる

ストーリー

GIGA端末に今週のリコmendが来た。

これまでの嗜好に基づいたリコmendや、類似の属性、都心部の同年代や、NYの同年代が興味を持っているリコmendも。

今日は図書館には行けないので、端末でダウンロードを実施、気に入った本には「いいね」や一言感想を添えて返却する。情報源が地域だけに限定されないことで、広い視野を持てるようになってきた。

小学校6年生になったら、最も興味のあるテーマは世界的な人口減少。豊かで継続性のある社会は、どうすれば訪れるのか、昨日もナイジェリアの友人と意見交換をしたばかりだ。

本体は、物理的なコミュニケーションを促進する場所である。市民が出資して、市民が運営、ニーズに触れつつけることができる。

<施設に必要な機能(役割)>

文字、映像、音、あらゆる体験の電子化

人物設定

アラフォー女性(兼業主婦)
夫・子ども2人(中学・高校)

タイトル

学び、つながり、きっかけづくり

ストーリー

子どもが大きくなり、自分の時間が持てるようになってきた。

大人になった今の自分が居心地よくいられる地域とのつながりや友達が欲しい。新しいつながり

- ・活動的な講座(ヨガとか)
- ・地域の講座の学び(商工会のまちゼミみたいな、写真の撮り方、おいしいお米、野菜、出汁、お肉の体験)
- ・発信ツール 講座・教室スペース
- ・友達や仲間とカフェでお茶する オンライン講座、少人数で利用できるスペース

<施設に必要な機能(役割)>

新しいコミュニケーションがはじまる場所

人物設定

学生Aさん:就活中

小松市の企業で働くBさん

タイトル

出会いの場をつくる

ストーリー

図書館には就活本や企業(市内の)研究のための本・パンフレットコーナーが設置されている。

↓

Aさんは、就活のためにそのコーナーを訪れる。

↓

パンフレットを提供しに来たBさんとAさんが出会う。(こまつ commons)共有の場

↓

AさんはBさんと会話することで、Bさんの会社について深く学ぶ、知る。Bさんは自分の会社の魅力を知ってもらえる。(こまつベース)拠点

↓

この出会いが就活で役に立ったことから、就活イベントを立ち上げる。気軽に来れる場所。
⇒小松で働く魅力発見。直接リアルな話を聞ける。(こまつキャンパス)育み

<施設に必要な機能(役割)>

- 情報の数
- 人と人との交流の場
- 情報を求める人、与える人材

人物設定

Aさん:ファッションが好きなシニア女性

Bさん:ファッションが好きな若者

タイトル

趣味でつながる世代間交流

ストーリー

Aさんは洋服が大好きで、未来型図書館の一角に設けられた古着屋を利用して、もう着なくなった服や小物を持ち寄り、まちの人たちに公開した。

そこでBさんと出会う。Bさんは古着やレトロな服が好きで、未来型図書館の古着屋によく訪れる。AさんとBさんは互いに洋服が好きという点で意気投合した。(こまつコモンズ)

好きなものでつながった2人は図書館で洋服についての知識や雑誌を見て、新たな情報を得る。→ファッションへの熱が増し、図書館をさらに利用する。(こまつベース)

情報発信ツールとしてSNSを利用して、集客をはかる。

交流の幅を広げる。シニアの方の人生の楽しみのひとつにする。

明るい色ワンポイントを入れることで新しい自分に。

新しい価値観との出会い。既存の思考から脱却がはかれる。イベントの開催もできるかも。あらゆる世代のファッションショーなど。(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

妄想ストーリー（グループ⑥）

人物設定

Aさん:映画好き

Bさん

タイトル

新たな交流拠点となる図書館

ストーリー

- Aさんが自身の映画知識をたくさんの人と共有したいと思い、映画上映会を開催
- 上映終了後、意見交換会をして交流をする
- その活動がサークルとなる
- 地域の結束力高まる

<施設に必要な機能(役割)>

上映スペース

人物設定

小松太郎さん。70才男性。退職後、生きがいを見つけれずモンモンとしている。

小松元気さん。65才。おとなりさんです。忙しい日々を送っている。

タイトル

未来型図書館で生きがいを見つけた太郎さん

ストーリー

ある朝、玄関に出て、二人が顔を見合し挨拶を交わす。太郎さんが元気さんに生活を聞き、一度お供をして「未来型図書館」に行った。
来館者が楽しそうな事をみて、よその国に来たようだ。子供たちがアニメづくりをしていた所々に参加し「50の手ならい」ならず、教わりながらつくっていた。ゆうに3時間は過ぎていた。何かに没頭できた事などはじめてであり、明日も来たいと思った。
元気さんは、経験を生かし、子供たちに小松の歴史をレクチャーしている。
やっと目標を見つけたと思った。

<施設に必要な機能(役割)>

人物設定

老齡期の人

同じような考えを持つ人

タイトル

生きがい、出会い

ストーリー

- 老齡期の生き方
自分の特性や特技を生かし生きがいとなる活動をしたい。
仕事でもボランティアでもない人に喜ばれる活動(NPOのようなモノ)→同じような考えを持つ人と出会い共有して活動したい
→仲間との出会い→活動の対象者との出会い→役に立つ・喜ばれる
- ↓
- 必要な知識や技術、法律などを学ぶ
- ↓
- 活動を深めるための専門家との交流
- ↓
- 図書館を通して暮らしやすい小松にしたい

<施設に必要な機能(役割)>

人物設定

Aさん→ある検定の2級をもっていて、次に1級を取ろうとしている。知識の振り返りとしてアウトプットしたい。

Bさん→ある検定(Aさんと一緒)の2級を取ろうとしているが、勉強方法がわからない。

タイトル

それぞれのニーズに合う学びの場をつくる

ストーリー

Aさんは、未来型図書館の勉強スペースの一角にある、話し合いが可能なブース(部屋／防音)で開催された、「学び合いの場(検定①)」を利用して、次の級をとるための知識の振り返りを目的とするアウトプットを図った。そこで同じ検定を取ろうとしているが勉強方法などがわからないBさんと出会い、Bさんの悩みを解決しつつ、自身も教える側になることで振り返った。(こまつコモンズ)

お互いのニーズを満たし、目的を果たした二人はさらに、アウトプットによる学びを続け、それぞれの級をとることができた。(こまつベース)

学び(アウトプット)は共感があってこそ！アウトプットによる学びの方法(”学び方”の選択:色んな形の交流)を知った二人は、今後のイベントも参加し、さらに多くの人が同じ方法で学べる場をつくった。(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

アウトプットする場「図書館から！」

人物設定

Aさん:50歳女性。最近、これからのことも考えて小松市に引っ越してきた。夫婦は子育ても終えてひと段落。夫は仕事をしている。手仕事やステキなインテリアなどが好き。

Bさん:小松市在住の50歳前後の女性。Aさんと趣味が似ている。

タイトル

“楽しんで学ぶ”場を通じて、人と人がつながり、人が輝く

ストーリー

Aさんは老後やこれからのことを考え、夫婦で相談して小松への移住を決めた。夫の仕事はテレワークも可能になったことで、出張と組み合わせれば行けると決断した。

楽しみにしていた小松での生活。しかし、待っていたのは“孤独感”だった。子育ても終え、学校などのママ友のつながりもなく、家で好きな手仕事をするが、なにか空虚感ばかりが押し寄せる。

週末に夫と出かけた図書館。好きな手仕事のコーナーに足を運ぶと「かご編み体験」の案内があった。いつかやってみたいと思っていたAさんは申し込んでみた。(こまつベース)

その体験で出会ったのがBさん。趣味が似ていることもあり、話が盛り上がり、ランチに行く約束をした。その後、また趣味が合う友人を紹介してもらい、いつしか大好きなコミュニティができていた。小松での生活が充実感でいっぱいになった。(こまつコモンズ)

手仕事が大好きなコミュニティで何かしようと、次は図書館で様々な手仕事イベントを開催しようと盛り上がった。いろいろな人に教え、人とのつながりが増え、人生楽しくてしょうがない。(こまつキャンパス)
最近、土日、夫を放って図書館での仕事が忙しく、夫が少しスネている(笑)

<施設に必要な機能(役割)>

- ・ 楽しんで学ぶ機会
学ぶことは人をワクワクさせ、次へのきっかけをつくる！！
- ・ “本を借りに行く場所”ではなく新たなワクワクを見つけに行く場所
- ・ 目的なく「行ってみるか」というデザインは大事
ファシリティも発信物も
“図書で完結”ではなく“図書館から”
“図書館(社会活動とプライベートの縁側)はピットイン”の場

人物設定

絵本と料理が好き。一人暮らし学生
だれかと食事を共にしたい。料理サークル

学生・親子
食べることが好き。つくることが好き。絵本が好き。ジブリが好き。再現料理が気になる。

タイトル

お話の料理をつくって食べる 好きの共有・交流

ストーリー

映画の料理再現

「料理が魅力的な本コーナー」「食べたい本の中の料理 投票」が図書館で設けられる。料理をつくる・食べるが好きな人たちが現れる。「これ食べてみたい！」「わかる！」といった会話がはずむ。(コモンズ 出会う)

“絵本の料理をつくって食べる教室”が開催される。みんなでつくって楽しい。普段だったらつくらない・つくれないものを実現できる。(ベース 営みの拠点)

料理の知識が増える。食育の場となる。本がもっと好きになる。新しい知と体験。(キャンパス 育む)

<施設に必要な機能(役割)>

キッチンスペース

イートスペース

妄想ストーリー（グループ⑦）

人物設定

Aさん:学生(大学4年)、卒論を書くために準備している。

Bさん:Aさんとは違う大学に通う学生。卒論を書いている。

タイトル

様々な意見をもらうことのできる場

ストーリー

Aさんは公立小松大学の4年生。卒論を書くための資料、文献を探しに図書館へ。とあるテーマに関連のある本棚の前で本を探しながら悩んでいると、同じ本棚の前で自分と同じように本探しに悩んでいる学生を見つけて思わず声をかける。(情報の核となる拠点)

話している中で卒論のテーマが自分と似ていることがわかり、一緒に資料集めなどをすることに。参考にしながら卒論を書き進めていくうちに、一度この文章を誰かに読んでもらって意見を聞きたいと思い始める。2人は図書館にあるシェアスペースにて学生ではない、主婦の方や会社員の方、おじいさん、おばあさんといった幅広い世代の方の前で自分の卒論を共有することができた。(持ち寄り共有し出会う場所)

その共有の時間で普段、教授や同じ学生からでは得られないような意見をもらうことができ、さらに自分の卒論をブラッシュアップすることができた。良い論文が出来上がり、評価もとても良かった。(ともに作り育む場所)

<施設に必要な機能(役割)>

テーマごとの本棚、シェアスペース(誰でも気軽に入れる場)、パーソナルスペース、マンガ部屋

人物設定

Aさん:学生
就活をしている。地元の中小企業をメインに見ている。

Bさん:学生
自分のやりたいことが見つからず、就活が行きづまっている。

タイトル

就活に役立つ街

ストーリー

小松市民のAさんは未来型図書館に設けられた地元の中小企業を検索できる(条件を絞るなど)検索ブースを利用し、自分の目的や働き方の希望に合った企業探しに役立てていた。

そこで、就活活動に悩みを抱えていたBさんは、そのようなブースがあることをネットで見つけ、ある日そのブースに行ったところ、Aさんと出会い、就活について話し合った。(こまつコモンズ)

未来への不安などで共感しあえた二人は、そのような悩みを抱える人が周りにも多くいることに気づき、どのようなことに悩みがあり、不安があるのか、情報の不足を補えるか現状を深掘りした。(こまつベース)

イベント・交流会

→不安・悩み解消、中小企業の選択肢増やす(こまつキャンパス)

<施設に必要な機能(役割)>

- 検索ブース
- 就活イベント
- 学生の交流会

人物設定

子育ても終わり、妻に先立たれた初老の男性、目標を失い、空虚な時間を過ごしている。

これからの人生に何をすべきか悩んでいる男子大学生。

タイトル

出会いほど不思議なものはない

ストーリー

男性Aさんは、図書館へ出かけ、昔読んだ本や関心を持っていた分野の本を探して読む事をしていました。そんな時、Aさんが特に若い時に感銘を受けた本を若い男性が読んでいるのを見かけ、思わず声をかけてしまいました。

その男性は、自分がやってきた仕事に近い世界へ関心があるという事がわかり、話すことが増え、やがて、Aさんも人生においてやり残した夢に気づき、青年と力を合わせ事業を拡大させていく。

<施設に必要な機能(役割)>

- ジャンル別の部屋があると楽しい。(旅行・音楽・子育て・ボランティア・小松の未来・小松の文化・グルメ)
- マンガだけの部屋が欲しい。
- ミーティングやイベントができる

人物設定

Aさん…第一子(生後7カ月)を出産して子育て中の新米ママ。子育てママとつながりたい。

Bさん(60歳)…3人の子ども(既に社会人)を育て上げ、夫と二人暮らし。自分の経験を生かした社会活動をやりたいと思っている。

タイトル

子育てを楽しく

ストーリー

市内のカブッキーランドに我が子連れてきて遊ばせていたAさんは、そこでスタッフをしているBさんと知り合いました。顔見知りになるにつれ、Aさんは子育て中の悩みなどをBさんに相談するようになりました。

はじめての子育てで戸惑うことの多かったAさんは、少しずつ子育てする喜びを感じるようになり、Bさんのアドバイスもあって子育て仲間を募ってサークルを立ち上げるまでになりました。

<施設に必要な機能(役割)>

それぞれの欲求(要望)が叶えられるようなマッチングできる機能

人物設定

Aさん:大学生。県外から小松の大学に来ました。好きなアニメを通じ小松市のことや歴史に興味がある。

Bさん:シニア男性。地元で長く不動産業を営む。地域活性化に対して地元尽力している。

タイトル

年齢趣味を超えた出会いの場所

ストーリー

Aさんは普段はネットやSNSで情報収集をすましていました。県外から来たAさん、好きなアニメを通じ小松のことや文化に触れる機会があり、その土地の情報を得るにはその土地の図書館が最適と未来型図書館に通うようになりました。そこで地域の知恵袋であるBさんと出会う。

Bさんにとっても若い方、そして県外の方の情報を欲していたので、お互いに情報交換の場所に。

年齢、趣向や趣味を超えて過ごせるくつろぎのスペース
(カフェスペースや室内公園、ミニステージなど)

<施設に必要な機能(役割)>

- おしゃべりのできるカフェスペース
- 大声で騒いで良い室内公園
- 発表できるミニステージ
- アニメスペース

人物設定

Aさん:高齢者で外にあまり出ず、こもりがち。でも音楽が大好きな女性。

Bさん:同じく高齢者で、小さいころから何か楽器が弾けたらという願望がある女性。

タイトル

好きな事と出来る事とやりたい事を共有する

ストーリー

Aさんは、家にいる時間が多く、でも人と接して会話をして楽しい時間を持ちたいとも思っている。音楽が大好きで6才から習っていたピアノを得意とする。

そんな時、「好きな楽器で音楽を」というテーマで高齢者向けの集まりがある事を知り参加する。

そこでBさんと知り合い、AさんはBさんにピアノを教えて、BさんはAさんとの楽しい会話をもたらし、そして音楽を共有し、いずれはいろいろな楽器演奏し、披露する場所、ホールなどがあつたらいいと思う。

<施設に必要な機能(役割)>

妄想ストーリー（グループ⑧）

人物設定

小学校三年生女子。川が好き。

同じく川が好きな人

タイトル

川と未来図書館

ストーリー

水族館みたいに魚を展示してある場所。

展示してある場所に魚の図鑑があって魚好きな人と自分が捕まえた魚の種類がわかる図鑑があるとみんなで調べられるからいい。

そこで知り合った魚好きの人と魚を捕まえられる川が未来図書館の近くにあるといい。

<施設に必要な機能(役割)>

人物設定

Yさん:女性、子ども2人、自然や手作りが好き

本が好き、自然が好き、手作りが好きな人誰でも

タイトル

個々からはじまるものづくり

ストーリー

家にスペースない。集中できる場所。

木でつくった遊具のなかで子どもたちは遊び、大人は手作りした作品を本棚の一角に展示販売(手作りの本の横)。ワークスペースで一緒につくったり、お茶飲みしながらトークがはずむ。

ワークスペースには、いろいろな道具があり、さおり織りや九谷焼、木工体験などが自由にできる。3Dもいいね。

そこで作った作品を展示販売することができるのがポイント。

小松に住んでいる生き物がいるところがある。昆虫とか魚。

<施設に必要な機能(役割)>

- 木と触れ合える遊具
- お絵描きコーナー
- 秘密基地のような空間

人物設定

高齢者(団塊の世代)、建設機械メーカー

<ふれあい> <交流> <やじうま人生>
年齢を超えた多様な人・異業種

タイトル

リアルタイムの交流

ストーリー

<アウトドア>

- ・ 大倉岳登山
- ・ ほたる観察
- ・ 昆虫採集
- ・ お寺・神社の探訪
- ・ 建設機械の製造工場
- ・ 小松基地ーF15訓練
- ・ ぐるめの店
- ・ 紡績工場(カバン・洋服)
- ・ 木場潟の水鳥探索



<インドア>

図書館の一室で図鑑や参考文献
専門の先生と交信しながら

- ・ 歴史・地理
- ・ 文化
- ・ 環境
- ・ スポーツ
- ・ 自然

<施設に必要な機能(役割)>

- ・ サテライトスタジオ(こまつTV・ラジオこまつ)
- ・ AI活用
- ・ 世界のワインコーナー

人物設定

定年間近の男性。気が付けば着る服があまりない。
できれば自分に合い、かつ変えられる服を買いたい。

地元で男性服を扱っているお店を経営。
お客様の希望に沿った服を提案できる。

タイトル

情報を紹介し、地域の経済の発展につなげる

ストーリー

図書館に行き、係の方に服を買いたいのだが、ファッションに関する図書を紹介して欲しいと依頼。好み・趣味を共有するグループ

係の方は、ファッション関係に詳しいグループに聞き、雑誌・本を紹介してもらう。

男性は其中で借りるのでは無く、買ったほうが良いと思う本を購入すべく、図書館の係の人に地元の本屋を紹介してもらう。情報のやり取り・グループの把握

また、地元のお店で自分に合ったお店を紹介してもらう。その情報をファッション関係に詳しいグループに聞く。

その店に行き、店の人に聞きながら服を購入。店の人も、ファッション関係の詳しいグループとつながっている。

<施設に必要な機能(役割)>

人物設定

中学生から社会人で受験勉強や資格の勉強中の人
※普段はカフェ等で勉強していた

リモートワークで仕事をしている社会人
※普段はカフェ等で勉強していた

タイトル

お互いに雰囲気をつくり刺激し合いながら学ぶ

ストーリー

資格勉強をする人とリモートワークをする人が集中して作業することができるスペースを設置(こまつキャンパス)
生活リズム等の関係でいつも同じ時間同じ場所にいる人たちは固定されてくる(?) (こまつベース)
特に会話や交流が起こるかはわからないが隣にいる他人が集中している→自分もその雰囲気にのまれて集中する→集中するための適度な緊張感のある場所ができる。

<施設に必要な機能(役割)>

- フリーWi-Fi
- 電源
- 飲食物(軽め)
- 文具売り場
- ブランケットやクッション
- 夜遅くまでやってほしい
- 電気スタンド

人物設定

Aさん／20代後半女性。今までの環境から自分を変えたい！と東京から小松へ移住してきた。小松について色々これから知りたいと感じている。読書好き。ちょっと人見知り。

Bさん／Aさんと同世代の小松在住の女性。県外から小松に移り住み、町おこしの仕事に携わっている。人なつっこくて酒が強い。

タイトル 小松で始まる

ストーリー

1ヶ月前に東京から移住をしてきたAさん。今までの環境から離れ、自分を変えたい！と思って移住したのだ。最近できたという話題の未来型図書館の存在を知り、足を運んでみることにした。本も読みたいが何しろ知り合いも友達と言える人もまだいない。「ここに来れば、何か見つかるかも」という漠然としたワクワク感があった。(むしろそれを求めている)(こまつコモンズ(出会う))

未来型図書館に行くと、図書館コンシェルジュのBさんと出会う。同年代だが、自分とは対照的にいかにも陽キャな明るい女性だ。まだ小松に来たばかりだ、と言うと、実はBさんも元々移住してきたことを知る。2人は同じ移住者という事で意気投合し、お互いに本をすすめあったり、図書館で行われているイベントやワークショップに参加することでAさんは徐々に知り合いも増え、街にとけこみ、小松が好きになっていく。(こまつベース(つながる))

小松に来て半年、Bさんから誘われBさん主催のイベントメンバーになることになった。図書館の庭で図書館全体を使ったイベントをしたいのだという。人見知りだったAさんだったが、自分でも驚くくらい自然に「やりたい！」と答えた。少し、自分が変わった気がした。(こまつキャンパス(ともにつくり育む))

<施設に必要な機能(役割)>

コンシェルジュ、談笑できる場所(カフェとか、大声でも話せる)

人物設定 社会人

タイトル まちの情報がつながり新たな体験が生まれる

ストーリー

図書館のテーマコーナーを見て周ることが楽しい。※図書館にはあちこちにいろいろなテーマの特集コーナーがある。新たな興味をひいたりもする。(こまつベース)

テーマに関連して、博物館・美術館での展示(その逆も)や公民館での講座の情報もあり、展示を見たり、講座に参加することでより深く学べる。また人との出会いもある。学んだ知識を人に伝えたい、趣味を同じくする人たちと一緒にミニ講座や展覧会を開催するようになる。

<施設に必要な機能(役割)>

素敵な書棚